

2019年2月1日

ANA/JAL 2018年度第3四半期の決算について

この度発表されたANAとJALの第3四半期連結決算を簡単に比較・概観しました。

- ① 両社ともに増収(特に国際旅客)で営業利益もほぼ前年並み。
最終利益も両社約1000億円で並んでいる。
(ANAは前年にPeach統合に伴う特別利益があった。)
- ② ANAの収入規模は約1.5兆円で、JAL(1.1兆円)の1.39倍。
増収幅はJALが近年になくANAを上回った。
国際旅客の増収には燃油単価UP跳ね返りの燃油サーチャージ収入増(約200億円規模)も含まれている。
JALは今期国際線乗り継ぎチケットの際内按分法を変更(国内収入減)したが、これを勘案すると国内旅客収入は実質100億円超の増加と考えられる。

	(ANA)	(JAL)
国内旅客収入	+ 22 億円	+62 億円
国際旅客収入	+492	+570
貨物郵便収入	+ 80	+ 80
LCC収入	+ 49	
その他収入※	+133	+138
(営業収益計)	(+776)	(+850)

※その他収入：マイルージ、機内販売、他社業務受託などの収入

- ③ ANAは今期に入って新鋭小型長胴のA321neoを増機(+8機)、中型のB767を退役(▲4機)させている。国内線の小型化&効率UPの一環と思われる(搭乗率は+1.1ポイント上昇して70%を超えた)。
JALは国際線用のB787-9型を増機(+4機)している。
- ④ 両社国際旅客の搭乗率は更に向上し、ANAは77.2%に、JALは81.8%となった。
ANAのLCCは規模拡大を続けているが、Peachの旅客数+9%増に対し、Vanillaは若干減少した(セブ線、ホーチミン線を運休)。

⑤ 通期見通し;

ANA は、売上高 2 兆円/営業利益 1650 億円との見通しを据え置いた。

JAL は、約 1.5 兆円の収入は据え置いたが、燃油費の見直しにより営業利益を+80 億円増の 1750 億円に上方修正、加えて税調整等で最終利益は+280 億円の 1380 億円に上方修正した。

《図表1》 連結損益計算書の概要比較

- ・ 収入規模で ANA は JAL の 1.39 倍
- ・ 営業利益は両社ほぼ 1500 億円で並ぶ(利益率は JAL がやや高め)
最終利益(親会社帰属利益)も約 1000 億円で並ぶ
- ・ 国際旅客の規模拡大は両社急速、今期の増収幅は JAL がかなり上回った。
- ・ 国内旅客の増収幅も JAL が上回った。
- ・ 通期の予想利益レベルは JAL がやや高い。

	ANA				JAL				通期予想	
	2017Q3	2018Q3	差	率	2017Q3	2018Q3	差	率	ANA	JAL
国内旅客	5,326	5,348	22	100	3,985	4,047	62	102		
国際旅客	4,474	4,966	492	111	3,464	4,034	570	116		
貨物郵便	1,185	1,265	80	107	692	772	80	112		
他の収入	3,923	4,105	182	105	2,320	2,458	138	106		
営業収益	14,908	15,684	776	105	10,461	11,311	850	108	20,400	14,880
うち燃油費	2,246	2,574	328	115	1,579	1,917	338	121		
他の営業費用	11,003	11,544	541	105	7,429	7,939	509	107		
営業利益	1,660	1,566	-94		1,452	1,455	3		1,650	1,750
(率)	11.1	10.0			13.9	12.9			8.1	11.8
経常利益	1,639	1,542	-97		1,422	1,386	-36		1,580	1,610
特別損益	439	-65	-505		-5	-11	-6			
税前利益	2,078	1,476	-602		1,417	1,375	-42			
最終利益	1,530	1,068	-461		1,141	1,066	-75		1,020	1,380

《図表2》 旅客にかかわる指標の比較

(国内旅客) ・ANA の収入は JAL の 1.32 倍、旅客数は 1.28 倍 (JAL は離島ローカル等短距離路線が多い)。

- ・ANA は小型化による供給調整で搭乗率大きく UP、JAL は小幅供給増。
JAL の増収幅は収入計上基準変更を加味すれば実質 100 億円超規模か？
- ・搭乗率レベルは JAL が 72.9% で ANA を上回る。(機材の大きさや、機内仕様の戦
略差も関係していると考えられる； 別途解説を予定)

(国際旅客) ・ANA の収入は JAL の 1.23 倍だが、今期の増幅は JAL が上回る

- ・搭乗率は両社向上しているが、JAL の方が高い (ANA 77%、JAL 82%)。
- ・旅客単価は ANA が JAL より高いが、路線構成の差 (ANA は高単価の中国線が多
く、JAL は低単価のリゾート線が多い) もあり、詳しい理由はわからない。

(ANA の LCC) ・収入規模は約 50 億円増の 700 億円規模となっている。

- ・ **Peach**； 旅客数は 9% (+33 万人) の 410 万人。
- ・ **Vanilla**； 旅客数は微減の 200 万人。 なお前年運航されていた成田＝セブ線、
台＝ホーチミン線は現在運休となっている。

	ANA				JAL				
	2017Q3	2018Q3	差	率	2017Q3	2018Q3	差	率	
【国内旅客】	%								
旅客収入	億円	5,326	5,348	22	100	3,985	4,047	62	102
旅客数	千人	33,799	33,757	-42	100	25,920	26,438	518	102
旅客 ^千 □*	百万 ^千 □	30,752	30,971	219	101	19,502	19,817	315	102
座席 ^千 □*	百万 ^千 □	44,481	44,083	-398	99	26,909	27,184	275	101
搭乗率	%	69.1	70.3	1.1		72.5	72.9	0.4	
旅客単価	円/人	15,758	15,843	85	101	15,374	15,308	-67	100
【国際旅客】	%								
旅客収入	億円	4,474	4,966	492	111	3,464	4,034	570	116
旅客数	千人	7,239	7,642	404	106	6,374	6,873	499	108
旅客 ^千 □	百万 ^千 □	36,685	38,299	1,614	104	31,375	33,699	2,324	107
座席 ^千 □	百万 ^千 □	48,195	49,634	1,439	103	38,815	41,212	2,396	106
搭乗率	%	76.1	77.2	1.0	101	80.8	81.8	0.9	101
旅客単価	円/人	61,808	64,980	3,172	105	54,347	58,694	4,347	108
旅客 ^千 □単価	円/ ^千 □	12.20	12.97	0.77	106	11.04	11.97	0.93	108
(平均距離)	KM	5,068	5,011	-57	99	4,922	4,903	-19	100

	ANA				
	2017上	2018上	差	率	
【LCC】	%				
収入	億円	643	692	49	108
旅客数	千人	5,790	6,099	309	105
旅客 ^千 □	百万 ^千 □	7,593	7,797	204	103
座席 ^千 □	百万 ^千 □	8,819	9,062	243	103
搭乗率	%	86.1	86.0	-0.1	
旅客単価	円/人	11,378	11,898	520	105
旅客 ^千 □単価	円/ ^千 □	8.47	8.88	0.41	105
(平均距離)	KM	1,311	1,278	-33	97
Peach 旅客数	千人	3,771	4,101	330	109
Vanilla 旅客数	千人	2,019	1,997	-22	99

以上